

05-15 会議議事録:学校関係者評価委員会 「改善方策」

日時: 2025-05-15 14:58:51

場所:[702 教室]

参加者:[篠田] [大原] [篠田] [河野委員] [時田委員] [今井] [横田委員] [森委員] [河野委員] [中村委員] [印南] [三觜] [東] [宮崎] [西村]

概要

本方策は、2025年5月15日に開催された学校関係者評価委員会の内容に基づいた提言になります。新東京歯科技工士学校・新東京歯科衛生士学校を中心に、学校運営の現状や教育理念、学生支援体制、業界の人材不足、学生募集、教育活動の改善、地域・国際交流、財務基盤など多岐にわたる議題が議論されました。各セクションでは、委員や関係者からの具体的な意見や現状報告、今後の課題と対策が共有され、実践的な改善策やアクションプランが提示されています。最後に、全体を通じて抽出されたアクション項目をまとめ、今後の取り組みの指針としています。

開会挨拶と委員会の趣旨

1. 2025年度学校関係者協会委員会が定刻通りに開始され、教務部長が司会進行を担当。

2. 参加者に議題や自己評価報告書、評価表が配布・確認された。
 3. 学校長より、昨年の問題点に対する改善や国家試験・入学試験の順調な結果、今後の課題への意欲が述べられた。
 4. 法人本部長からは、昨年度の意見を受けた運営改善や定員充足の成果、新設校の開設について報告があった。
-

学校運営の現状と改善点

- 昨年度の委員会意見をもとに運営改善が進み、定員充足や成果が報告された。
 - 今後も業界や委員からの意見を積極的に取り入れ、運営に反映する方針。
-

委員・出席者の紹介

- 委員や学校側出席者の役職・担当が紹介された。
 - 欠席者も明記され、委員の多様な立場が強調された。
-

評価委員会の趣旨と評価方法

1. 事務局長より、専門教育機関の水準維持・向上を目的とした委員会の趣旨が説明された。
 2. 全国の認定校数や社会的認知、開かれた運営の必要性が述べられた。
 3. 評価方法は多様な立場からの5段階評価・3段階評価を組み合わせ、結果は公開される。
 4. 委員意見を反映し、自己評価や教育現場への還元を目指す。
-

学校概要と基本情報

- 新東京歯科技工士学校(1980年開校)、新東京歯科衛生士学校(1983年開校)の設置課程や学科構成が紹介された。
-

教育理念・目的・育成人材像

1. 教育理念・目的・育成人材像を明確に設定し、卒業生の人材像や教育内容に反映。
 2. 教育指導要領を毎年作成し、学生と目標を共有。
 3. 受験学園グループの規模や歯科分野の取り組み、実学教育・人間教育・グローバル人材育成の方針が説明された。
-

学校運営と人材育成体制

1. 学校運営の基準や体制、事業計画書の内容と運用が説明された。
 2. スタッフ研修や安定した運営体制の構築、2024年度の運営状況が報告された。
-

教育活動と学習成果の評価・改善

1. 教育活動と学習成果の連動、卒業生の専門就職率や国家資格取得率、退学・留年・休学の抑制が重視された。
 2. 学生サポートや成績評価、学則・情報共有の体制が説明された。
 3. 2024年度委員会での指摘を受けたカリキュラム改善(基礎科目の時期変更、グループワーク導入等)が具体例として挙げられた。
 4. 継続的な改善と外部意見の重要性が強調された。
-

退学者・進級状況および目標設定

1. 退学者数の現状と目標、実績との差異、今後の対策方針が説明された。
 2. 進級時のトラブルや目標設定、実績の報告があった。
-

就職率・卒業後のフォローアップ

1. 2025年3月末時点での就職率100%の実績が報告された。
 2. 1年以内の離職やマッチングの適正など、就職後のフォローアップの重要性が指摘された。
-

国家試験合格率とグループ校比較

1. 全国平均・グループ校・新東京校の合格率が比較され、今後は100%合格を目指す方針が示された。
-

学生支援体制とメンタルサポート

1. 教員・就職・生活サポートチーム・保護者を含めた多面的な支援体制が構築されている。
 2. JTSC 相談窓口や長期的な支援、個別対応の仕組みが整備されている。
 3. 通信教育や多様な学生背景への対応、心身両面での支援が重視されている。
-

教育環境・海外研修

1. 教育環境の基準や海外研修の再開(2023年韓国、2024年度も計画)が報告された。
 2. プログラム内容について教員からの意見も歓迎されている。
-

学生募集・広報活動と成果

1. 技工学科・衛生学科ともに定員充足や安定した募集状況が報告された。
 2. 広報活動の強化や出張授業の実施、職業認知向上の取り組みが紹介された。
-

財務基盤と情報公開

1. 財務指標の公開や財務基盤の安定、定員充足率の推移が説明された。
 2. 今後も開かれた学校運営を継続する方針。
-

地域・業界貢献活動

1. 社会貢献やボランティア、地域・業界への貢献活動の強化が報告された。
 2. 学生・スタッフの地域活動参加や体制強化の検討が進められている。
-

国際交流

1. 台湾の学校との交流や、教員・学生の来日研修が実施された。
 2. 今後も国際交流活動を積極的に推進する方針。
-

休憩・会場案内と進行

1. 会議の進行案内や休憩、トイレの場所案内が行われた。
-

ベンチャー人材・組織運営

1. ベンチャー人材の減少や高齢者の役割、組織運営・収益性の課題が議論された。
-

大学・教育機関の現状と課題

1. ベテラン教員の活躍や新しい講師の登用、大学の組織運営、現場での課題が共有された。
-

業界の人材不足への対応

1. 東京都歯科医師会の取り組み(イベント・SNS 発信等)が紹介され、業界の人材不足解消に向けた具体的なアクションが共有された。
-

質疑応答・意見交換

1. 会議の冒頭や再開時に質疑応答・意見交換の時間が設けられ、参加者に積極的な発言が促された。
-

大田区民フォーラムと今後の展望

1. 2023年2月の大田区民フォーラム開催実績と参加状況、今後の開催予定が報告された。
2. 地域・業界との連携活動の継続方針が示された。

歯科衛生士・技工士学校の定員充足状況と競争環境

1. 都内・全国の学校別定員充足状況や競争環境、ライバル校の存在が説明された。
2. 競争環境や今後の増加傾向が指摘された。

学生募集・定員割れの要因と対策

1. 学校選択要因や独自性、カリキュラム、雰囲気などが学生募集に影響することが説明された。
2. エリア・年齢層ごとのニーズ把握や募集活動強化、業界ネットワークの活用が今後の方針として示された。

留学生・通信制・全日制学生の割合と退学率

1. 技工士学校・衛生士学校の学科体制や留学生・通信制・全日制学生の割合、退学率の現状が報告された。
2. 通信制出身者の課題や適応状況、全日制出身者の割合が説明された。

業界全体の人材不足と今後の課題

1. 歯科衛生士・技工士の人材不足や初任給上昇、派遣業への登録料、離職の多さなどが課題として挙げられた。
2. 日本歯科医師会も人材不足を問題視し、今後の増員が必要とされている。

国家試験合格者数と職業選択の現状

1. 国家試験合格者数の減少や新東京校の集客力、技工士志望者減少の要因(職業環境・給与面等)が説明された。

技工士業界の教育と人材確保

1. 職業イメージ向上や教育活動の推進、新卒者受け入れの課題、教育強化の必要性が強調された。
 2. 入学者・卒業者数の減少や人材流出の現状が共有された。
-
-

技工士学校の地域性と進路選択

1. 地域ごとの学校分布や学生の動向、生活面を重視した進路選択が説明された。
-
-

技工士学校の認定制度と差別化戦略

1. 認定制度の現状や課題、差別化と学校経営の戦略、進路指導の現状、DXの進展が議論された。
-
-

歯科助手・衛生士教育と技工士教育の比較

1. 歯科助手・衛生士の教育事例や認定制度、技工士教育の現状と課題、進路選択の多様性が説明された。
-
-

歯科技工士・衛生士教育と職場体験

1. 教育現場の現状や課題、職場体験の重要性、離職率・退職理由、カリキュラム提案が共有された。
 2. 地域の教育機関の状況や求人・離職の現状が説明された。
-
-

歯科業界の就職・労働環境と人材確保

1. 保護者視点からの安心感や評価、学校への信頼が述べられた。
-
-

海外・国内の歯科技工ラボ事情と資格制度

1. 海外ラボとの比較や国内最新事例、資格制度の違いと懸念、制度維持・強化の必要性が説明された。

人事院規則改正と外国人材

1. 初任給基準の新設や待遇改善、外国人材の受け入れ状況、今後の協力体制が報告された。

学校運営・教育活動への意見と今後の連携

1. 委員の意見を直接反映できる環境や今後の意見・要望の受付体制が説明された。

事務連絡・提出物の案内

1. 評価表・意見書の提出方法や期限、振り込み案内が共有された。

改善方策に向けたアクション項目

- [] 6月に実施される定期試験および授業アンケートの結果をまとめ、後日報告する
 - [] 退学者数削減のための対策を検討・実施する
 - [] 進級時のトラブル対策を強化する
 - [] 就職後の離職やマッチング状況のフォローアップ体制を整備する
 - [] 国家試験合格率向上のための具体的施策を検討する
 - [] 2024年度の海外研修プログラムの具体化と実施準備
 - [] 地域・業界貢献活動の継続的な強化策の検討
 - [] 出張授業や広報活動のさらなる拡充と効果測定
 - [] 先生方からの質疑応答・ご意見の収集
 - [] 業界の人材不足に関する東京都歯科医師会の取り組み状況の継続的な情報共有
 - [] 2025年度に向けた学生募集活動の強化とエリア・年齢層ごとのニーズ把握
 - [] 各校の入学点数を総会で確認し、競合状況を把握する
 - [] 留学生・通信制・全日制学生の割合や退学率の詳細データ収集と分析
 - [] 歯科衛生士・技工士の職業魅力向上策の検討（給与・職場環境等）
 - [] 評価表を提出（書面またはデータで対応可）

[] 意見書を5月23日までに提出

05-15 会議議事録:学校関係者評価委員会

2025-05-15 14:58:51

大原 00:00:00

よろしく、お願いいたします。先生方大変お待たせいたしました。

定刻になりましたので、2025年度学校関係者協会委員会を開催いたします。

よろしくお願いいたします。

本日はお忙しい中、委員会にお集まりいただきましてありがとうございます。

本日、司会進行を務めます教務部長の大原と申します。

どうぞよろしくお願いいたします。

はじめに、お手元の資料の確認をさせていただきたいと思います。

お手元に、本日の学校関係者協会委員会の議題、自己評価報告書、こちらは技工士学校と衛生士学校、それぞれのものがございます。続きまして、A3サイズの評価表でございます。

それでは、本日の学校関係者評価委員会について議題に沿って説明させていただきます。

ではまず、本日のスケジュールですが、はじめにということで、新東京歯科技工士学校、歯科衛生士学校の宮崎学校長より開会の挨拶をさせていただきます。

宮崎 00:02:20

宮崎です。本日は、大変お忙しい中、森先生をはじめ、先生方本当にありがとうございます。

昨年初めてこの委員会に出させていただきまして、結構学校でいろいろな問題点があるということも提示させていただいたんですけども、一年間、本校職員も大変努力して、かなり改善されたというふうに思っています。また、国家試験の成績も割に良かったですし、それから受験生ですか、入学試験の方も順調でありました。

ひとえに先生方のご支援の賜物だと思っております。今日もこれからいろいろな課題とその方策についてお知りいただくとお思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

大原 00:03:10

ありがとうございました。

では続きまして、学校法人東京滋慶学園 副運営本部長の今井より挨拶させていただきます。

今井 00:03:19

今井です。先生方ありがとうございます。本年もまたよろしく願いいたします。

一年って本当にあっという間ですね。昨年度、先生方からご意見をいただきまして、やっぱり今回の会議は昨年の皆様からご意見をいただいて、どう昨年度の学校運営の中で改善をしてきたかというところが一番のところだと思います。今、学校長の方からありましたが、少子化のこの時代に衛生士学校、約 160 名の定員のところが 174 名、技工士学校の方が滋慶学園グループ参入以来、初の定員充足ということで、この時代にこういった学びができるという学校を築き上げていけるのには委員の皆様のお力とご意見あつてのことだと考えております。

今回も一方的に本校の方がこれをこの項目に沿ってこうしましたという話を中心になってしまいますが、どうかまた皆様の業界からのご意見をもらいまして、学校運営に活かしていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

私事ですが、昨年度 11 月の人事におきまして、今までは新東京歯科技工士学校、新東京歯科衛生士学校の 2 校の担当でしたが、今回、滋慶学園グループとしては初めて神奈川県横浜に学校を開設しまして、今年度より 3 校の管轄となっておりますので、ご知りおきいただければと思います。以上です。

大原 00:05:15

ありがとうございました。

続きまして 2 番目の議題、委員の先生方のご紹介並びに本校の出席者の紹介をさせていただきます。では、先生方からご紹介させていただきます。

拓殖大学広陵高等学校の校長の森先生になります。

森委員 00:05:15

森と申します。これでどうぞお願いします。

大原 00:05:15

お願いします。森先生は、新東京技工士学校と衛生士学校両校のご担当いただいております。ありがとうございます。続きまして、大森歯科医師会会長の河野先生になります。

河野委員 00:05:58

2月9日の、区民フォーラムでは大変お世話になります。

またあの、来年もありますので、よろしくお願いいたします。よろしくお願いいたします。

大原 00:06:05

続きまして、株式会社テクニカルセンター取締役技術部長の中村様です。

中村委員 00:06:16

卒業生代表として今回参加させてもらうようになりました。

また学校の変化に貢献できないかと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

大原 00:06:24

よろしくお願いいたします。

続きまして、歯科技工士学校1部2年生、在校生、保護者代表の時田様になります。

時田委員 00:06:24

よろしくお願いいたします。

大原 00:06:24

続きまして、一般社団法人歯科技工所協会理事長の木村様になります。

木村委員 00:06:49

いつもお世話になっております。

皆様ご存知のように、本当に今、我々の業界っていうのは、ある意味危機的な部分もあるんですけども、非常にチャンスに今、恵まれております。ものすごく上げ潮基調です。ね、いろんなところ動いてますので、その中で教育の現場っていうのが非常に重要になってくると思います。あの一年間ですか。どうぞよろしくお願いいたします。

大原 00:07:19

続きまして、歯科衛生士2部3年生・在校生・保護者代表の横田様になります。

よろしくお願いいたします。

横田委員 00:07:19

よろしくお願いいたします。

大原 00:07:19

議題の委員の方の渡辺様、富田様に関しましては、本日、所用で欠席となっております。

続きまして、学校出席者の紹介をさせていただきます。

本校、学校法人東京滋慶学園 理事長中村ですが、本日所用にて欠席となります。

続きまして、先ほどご挨拶をさせていただきましたが、新東京歯科技工士学校、歯科衛生士学校学校長の宮崎でございます。

続きまして、新東京歯科衛生士学校文学校長の三觜でございます。

続きまして、学校法人東京滋慶学園の副運営本部長の今井でございます。

続きまして、新東京歯科技工士学校、新東京歯科衛生士学校の事務局長の篠田でございます。

新東京歯科技工士学校教務部長印南でございます。

新東京歯科技工士学校、新東京歯科衛生士学校キャリアセンター長の西村でございます。

続きまして、新東京歯科技工士学校歯科衛生士学校学生サービスセンター長の東でございます。

大原 00:09:14

以上のメンバーで本日は進めてまいりたいと思います。

では続きまして、議題の3番目、本委員会の趣旨の説明を事務局長篠田よりさせていただきます。

篠田 00:09:31

聞き取りづらかったら先生、言ってください。

頑張って、地声でいきたいと思います。熱意をお伝えしたいです。

改めまして、篠田と申します。よろしくお願い申し上げます。

私ですが、今年の11月に新東京歯科技工士歯科衛生士学校に着任をさせていただきました。

それまでは滋慶学園グループに入職をいたしまして、日本医歯薬ですとか、東京医歯薬ですとか、(専門学校を)担当させていただいておりました。また、11月から新東京歯科衛生、そして技工の学校に着任をさせていただきます。元気にやっておりますので、また引き続き皆様のご意見いただきながら、勉強させていただきながら進めたいなというふうに思っておりますので、どうかよろしくお願い申し上げます。

今日なんです、私も緊張しておりますし、何しろ 11 月着任ですので、なかなか理解も先生方にうまくご説明できるかどうかわからないところもありますので、ぜひぜひお声かけていただいて、ご確認いただければと思います。私には素晴らしいスタッフも今日は揃ってもらっていますので、私よりもしっかりとご説明できる範囲もありかと思っておりますので、本当に忌憚のないご意見をいただきながら勉強を、指導させていただくお時間としたいと思っておりますので、何卒よろしくお願い申し上げます。では、少しお先覚えをさせていただきます。まずはですね、この委員会の委員の趣旨、評価内容のご説明ということでございます。各先生方におかれましては、また前回、昨年ですね、させていただいた内容のご確認ということになります、この学校関係者評価委員会とはということでございます。

皆様ご承知の通り、専修学校制度の系統図ということで、こんな取り組みになっております。私どもは中学校、そして高校様から(生徒を)お預かりする、専修学校専門課程というカテゴリーに属しております。それが全国で 2024 年度ですね、2,721 校認可を受けている形になります。

後ほどご説明させていただきますが、この専門専修学校専門課程のカテゴリーの中で、一定度の専門学校として、専門教育として果たしている役割を認められるもの、社会的にもしっかり認知され、認められるものの学校群として、国でいくつかの精査された上で認定を受けています。専門学校というのは大学よりも結構、学校の意図でカリキュラムですとか、あるいは取り組みについて任される範囲が大きいということで、国の中でもしっかりそういう取り組みをしている業界の皆様のお声を聞いて、あるいはいろんな皆さんのプロの皆さんだとか高校生のご意見を聞きながら運営している学校ということで認定を、受けるんですが、このしっかりとした専門教育をしている学校群として 1110 校が職業実践専門課程ということで認められております。

今回の皆様方にずっとお願いをさせていただいております学校関係者協会委員会の趣旨なんですけれども、この職業実践専門課程というところが挙がっているんですが、先ほど言ったように、我々でしっかりとした専門教育機関として認められていくという点においては、ありますが、職業に必要なより実践的かつ専門的な能力を育成するために、しっかりとした職業教育の水準の維持の向上を図るということを日常的に努力をしているということがとても重要になっていきますし、またそれを実教育に反映させているかどうかというのが問われていきますので、私どもとしてもしっかりそこはやって継続的にやっていきたいなと思っています。

全国の専門学校で、先ほどちょっと数字申し上げましたが、2,721 校ある中で、これで認められているのが 1,110

ということで、約 40% ぐらいの学校にしか認められていないということなので、我々としてもやっぱり社会的にもしっかりした学校として、開かれた学校として取り組んでいくという、運営していくという意味においては、この学校関係者評価委員会の皆様のご意見を取り入れながら、協力していきたいなというふうに思っているところでございます。

具体的にどんなことが評価されていくのかということ、こんな感じになっておりまして、例えば企業などが参画して、学校評価をちゃんと実施しているかどうか、我々の自分の内部の振り返りをして、それについてご報告をさせていただいて、いろんな高校の先生ですとか、いろんな業界の皆さんだとか、卒業生の皆さんだとか、保護者の皆様に、示しながら、それがどうであるかということをご評価を広くいただいて、振り返っているかどうかということももちろん入っておりますので、これらの 01 から 05 までのエクセルをまた改めて情報提供して、ホームページとして広く世の中の皆さんに開けた学校としてご提供できているかということも、こちらの中に入っていますので、この認定基準についてももしっかり守っていこうというふうな取り組みでございませう。

この趣旨が一番大きいんですけども。私どもで自己評価をさせていただきました 2024 年度の取り組みについて、各先生方にご報告させていただいて、私どもの内部でこれはできて、これはまだまだ足りないというようなことの自己評価をさせていただきました。それと、皆様先生方のご意見をすり合わせながら、一旦の自己評価をするということと、またさらにブラッシュアップをするためにはどうしたらいいかというようなことをご意見いただきながら、また実教育の方に回していく。一手に入れて学生様に、あるいは業界の皆さんにご提供するというサイクルを回していくということになります。今日はまさにここの部分でございませう。

皆様から広くご意見をいただくということになっておりますので、本当に忌憚のない、そもそも思っていたんだけど、というようなお話も含めていただけたらなと思っておりますので、よろしく願いいたします。実際の評価なんですけど、お手元にですね、衛生と技工それぞれの、自己評価報告表を出させていただきました。私どもとしては、自己点検評価基準として全 65 項目の小項目がございませう。これについて、5 ができている 1 ができていないということで評価をしております。さらにそれを中項目ごとに総括し、表記をさせていただいております。これは日本の英語の同じような形でございませう。先生方におかれましては、大項目について 1、2、3 ということでご評価いただくということになっております。この辺のところはまたご判断いただいたり、お話しをお聞きするということにはなりますが、よろしく願い申し上げます。何かこの辺のところでご不明な点がございましたら、お声かけていただければご説明を改めてさせていただこうと思っておりますので、よろしく願い申し上げます。

実際の今回の評価の報告に入りたいと思っております。今回、新東京歯科技工士学校と新東京歯科衛生士学校という 2 校の取り組みについてご報告をさせていただきます。それにあたって、改めて皆様に概略のご紹介をしたいなと思っております。2024 年度、高校の皆さんや、希望される皆様に学校として、ご報告させていただきます。歯科技工士学校ですが、1980 年に開校した学校になって、歯科技工士科 I 部、歯科技工士課午後部、歯科技術予備教育科ということでご案内をさせていただきました。もう一つは、新東京歯科衛生士学校になります。1983 年開校で、歯科衛生歯科 I 部、歯科衛生歯科 II 部ということで、昼間部と夜間部の開校ということで、ご案内をしております。

これを前提として、少し具体的なご案内をさせていただこうと思っておりますが、先生方からチェックをいただく大項目としますと、11 項目あります。

まず 11 の基準のうち、基準 1 というのが出てまいります。これが教育理念目的育人材像ということになります。この賞については、しっかりと学校として教育理念を設定し、目的を持って教育をして、さらに卒業するその人材像について、しっかりと検討され、その教育内容を提供できているかどうかということが問われてまいります。

細かくはまた内容をちょっとまた見ていただくといいかと思うんですが、私どもの取り組みについて文字化をさせていただきました。

基本理念をベースに教育理念、目的、職業育人材像を設定して活動していくということで教育指導要領というこういった冊子を毎年作っております。

この中には養成目的や教育目標などを細かく設定し、こういう学びを手順を追ってするんだよということを取り決めます。学生にも同じものを配布し、目標を共有する取り組みをしております。

この内容について、先生方から毎年ご意見をいただき、そういったところも加味しながら作成している状況でございます。

この教育理念なんですけれども、こういった、例えば先生方に今日ご意見をいただいて、今の業界の動きの中でこういった人材像が必要だというご意見とかもあるのと同時に、滋慶学園グループとして大切にしているもの、職業人教育をしっかりとしたいというようなベースも汲み取りながらやっていきたいというふうにも思っております。現状では滋慶学園グループ全体では、全国に 81 校の学校、運営をしております。今井から話がありましたけれども、神奈川の学校できまして、81 校の規模になっております。うち 81 校中 10 校が歯科分野の教育をやっています。歯科衛生士及び歯科医工士の教育もやっておりますので、例えば国試対策ですとか、あるいはカリキュラムの設定ですとか、各学校ごとに地域は違っても連携をしながら教育課題には立ち向かっていきたいなというふうに思っております。

また我々には建学の理念というのがあります。実学教育、実際の仕事のしっかりと技術知識をつけていただく実学教育と人間教育、それを裏支えする人間的な職業人としての人間的な教育というのもしていきたいなというふうに考えています。また国際教育として、この時代ですので日本だけの視点ではなくて、世界の中にある日本の自分たちのことを知ることで、今後のグローバルな人材も育成していきたいなという、その流れについては、我々はどんな時代が変わったとしても踏襲していきたいなと思っております。

ただ、届けるものは学生や業界が求める人材も変わっていますので、工夫をしながらやれたらなというふうに思っています。この力もっと必要じゃないのみたいなこともご意見も、ぜひいただけたら嬉しいなというふうに思っております。

次はですね、学校基準、基準 2 になってまいります。学校経営です。これは教育のみならず学校の経営あるいは人間について全てもしっかり開かれたいい形で運営されているかどうかということが指導としてなっております。しっかりとした皆様に開かれた

学校運営が普及できているかどうか、あるいは学生に対応するために人材育成研修ですとか、そういったところもしっかりされているかということのチェックでございます。ここにありますが事業計画書を作ったり、あるいはそれをもとにスタッフの方に徹底をし、学生にご迷惑がかからないような運営を心がけています。

また、滋慶学園もそうですし、あるいは学内もそうですけれども、人材育成ということで多くの研修を用いながら、しっかりとした事業あるいは運営ができるようにということで対応しております。ちょっと見ていただきます。これが事業計画書なんですけれども、いやサンプルということではないサンプルでございます。

事業計画は、この中には組織目的だとか、どういうふうに学校が成り立っているのか、どういう目的でこれを運営していくのかということが記載してあったり、実行計画、例えばそういう学校を就職100%国家試験合格100%にするためにはどうしたらいいかみたいなこと、どういう方針でどういう答えをやっていくのか、ということをもとめていきます。

この事業計画をもって、運用をしながら、みんなでしっかり進めていこうということになって、これは毎年、その年で組み立てていくということになっております。

学校については、2024年度のご報告になります。

学校長が宮崎先生、副学校長に三觜先生ということと、2024は事務局長として今井が書いておりましたので、この運営状況ということになっております。

基準3は教育活動についてです。

基準4の学習成果ですが、これちょっと切り離してのご報告なかなかできなくて、教育活動がどういう教育をしているのかということと、学習成果としてどういうことになったのかということが問われております。ですので、ちょっと切り離してはご報告ちょっとできづらいところがあるので、少し合わせてご案内させていただきたいと思っております。

どういう教育をし、どういう結果になっていたのかっていうことなんですね。我々としてはとても重要であるのは、卒業生を業界で活躍できる人材として育成していく学校ですので、専門の就職がちゃんとできているかとか、入学した学生が途中でやめるようなことが多くなっていないかですとか、あるいは国家資格がちゃんと取れていくかどうかとか、あるいは人物的に、しっかり養成目的を叶えられるような人材として育成できているかっていうことを中心に考えております。

我々としては、今はちょっと運用としては、PC上のデータで運用もしたりしてるんですけど、こういうような学生サポートハンドブックというようなこともあって、ぜひ皆さんお時間の時あればご覧いただきたいと思っているんですけど、我々のノウハウ本というのか、こういうことが一つベースとして考えておきなさいというのがありますので、これを下敷きにしながら、学校の分野ですとか、学生の状況に合わせてながら、工夫をしながら対応していこうと。本校含め、グループとしては結構人数いますので、最低限本当に

業界の皆様とか学生様にご迷惑がかからないような形の知識をこれで学びながら試行錯誤させていただいているということをございます。これもやっぱり時代とともに変わっていくところもありますので、毎年、更新しております。

成績評価の基準を明確に定めるとともに、学生の就職決定に努める。これは学則も同様なんですけれども、先ほどご覧いただきました教育指導要領ですとか、場面によってこうなっていくよとか、この単位はこうです、こういう勉強がこういうふうに進んでいきますということを改めて年度の当初に説明をさせていただきながらやっていきたいなというふうに思っております。

時代とともに、IT ですとか、個人情報の取り扱いについての指導をしたり、最近はその時代とともに本当にいろんな変わっていくことも吸収しながらやりたいなというふうに思ったりします。

まだまだ至らない部分があったりするかなというふうには思っております。実は昨年2024年度の学校関係者評価委員会の場でですね、ご指摘をもちろんいただいておりまして、この辺、このご指摘を我々でどう解釈をして、どういうふうな取り組みをしたかというご報告も合わせて委員会を進めていきたいなというふうに思っております。

昨年度いただいたご意見の中で、歯科衛生士の基礎科目について、少し苦手意識が学生会の中で生まれる可能性があるということで、それはカリキュラムの上で、少し工夫をした方がいいんじゃないかっていうようなご意見をいただいておりまして、我々の方でよりそれをどういうふうに現実の学生様にご提供するかということを検討しまして、大原からお話させていただきます。

大原 00:31:52

昨年度先生方からいただいたご意見の中でやっぱり基礎科目、解剖学ですとか生理学などは初めから初心者に向けた対策をせずに、それに取組んでしまうとやっぱり学生が難しいとなってしまう、勉強自体を諦めてしまうことがある、というお話をさせていただきました。その際に実施の時期をばらしたらどうですかっていうご意見を実はいただいたんです。

そのご意見をいただいて、じゃあどうしたら本校のカリキュラムの中に落とせるかっていうふうに考えたときに、まずこちら昼間部で本年度、2025年度、先月から行っているものになりますが、通常ですと解剖学や生理学など、歯科衛生士業務に必要な、(図表を指して)ここにあります予防の衛生士のメインとなる科目ですとか、同時に進行していくんですね。

そうしますと、やはりこう専門用語もそこで覚えなければいけない。あとは漢字の読み方も、私たちは何度も何度も見えますので、当然のように感じる漢字も、学生にとってはやっぱりこうまず読めない、そして意味が理解できないというところにつまずいているということもありましたので、本年度4月はまず衛生士に関わる業務内容の科目のみに絞りました。

なので、4月は解剖や生理などではなくて、先ほどありました衛生士の三大業務と言われる科目がございまして、歯科予防処置、歯科保健師と歯科診療補助があるんですが、これに加えて職業がイメージしやすい歯科衛生士総論という科目、そしてあとは、コミュニケーションを取るための手話ですとか、そういった科目にだけに絞って、今年度4月に実施をしてみました。

その中で、座学で一般的に理解が低いのが、通常授業の始めのスタイルになるのですが、もちろんその対策も行いつつ、グループワークを実施したり、衛生士の職業がイメージしやすい実習を組み込みまして、学生の横のつながりを評価しながら、まずはその専門用語、漢字含めて抵抗感をなくしてから5月解剖学や生理学につなげるというふうに、本年度変更させていただきました。

これらの実施報告なんですけど、この結果につきましては、実は来月、6月に定期試験が行う予定にしております。また、そこで授業を行った授業アンケート、学生がどう感じたのかといった結果は、別の報告になってしまうんですが、昨年委員の皆様からいただきましたご意見を学内に反映しましたというご報告になりますので、また追ってご報告させていただきたいと思っております。

ご意見ありがとうございました。

篠田 00:34:33

大原部長、ご説明、ありがとうございました。

本当に私たちは学校で日々学生と向き合っているだけだと、どうしても視野が狭くなっていきますので、教養な機会を得てですね、いろんな先生方にご指導いただいたり、ご指摘いただくことが本当にとても重要だなというふうにも思っております。

またご報告を引き続きさせていただこうと思っております。

実際先ほど申し上げた退学者を、できるだけ少なくしたいとか、あるいは途中で、例えば留年ですとか、休学のような、途中でちょっとなかなかちょっと断念してしまうような学生たち、ちょっと遅滞してしまうような学生たちも、できるだけ抑制していきたいという取り組みをしまいいりました。

ここで少しご紹介学習成果としてご報告をさせていただきたいと思っております。

我々は、退学する学生をゼロに抑えていきたいんですが、なかなか現状そういうところもできないところもあります。

一旦でも最低ここだけはクリアして、学生様を支えていきたいという目標立てをさせていただいています。その目標を確定させていただきました。結果が以下でございまして。(掲示資料図示)

ご覧いただきました通り、技工の方が13名でできるだけ収めたいというところがありましたけれども、実績が15名ということで、これは我々今後またしっかり振り返りながら対策を取らねばならないというふうに思っております。

また、衛生は、例年のこの流れですとか、状況を鑑みて20名というような目標立てをさせていただきましたが、18名で抑えることができました。

この数字がいいかどうかというのは、もちろんいろいろあるかと思えます。ご意見もあるかと思いますが、一旦これも途中経過として、今後も退学者を少なくしていくことを念頭に置きながら取り組みたいなというふうに思っております。

新東京合計としましては、ちょうど目標と同じということになったわけですが、これも一旦我々のスジャンプアップする補充計画ということで、今後もっと良くしていきたいなというふうに思っております。

次に下が、1年生の進級率でして、1年生が2年生に上がる時、どうしてもやっぱり1年生の時にトラブルを抱えるケースが多く、先ほど基礎科目というお話がありましたけれども、やっぱり高校時代の学びと専門での学びの内容の違いが、一番ハードル感が高いのはこの時期かなということで、1年生のところで入学した学生たちが、すんなり2年生に目標どおり進級できるかどうかというのも一つの指標かなと思っております。

そこで目標立てをした結果でございます。同じく丸をつけさせていただいているところが、目標よりもいい数字で1年生から2年生に進級することができたということになります。

学校全体としては一緒になりましたが、これもジャンプアップする我々の今の力の中では、一旦の経過報告ということでさせていただきます。しかしながら、これで満足をしてはいけないなということと、よりこれの数字を高くしていくためにどうすべきかということも併せてご意見なども頂戴できればと思っております。

再度、学習成果においては、卒業年次の就職の問題がございます。

就職の問題は3月末の段階で就職率が、技工も、そして衛生の方も、卒業全員堅調で、ご希望いただいた方については、全員就職を決めて差上げることができました。

求人倍率も本当に近年すごく高くなってきておりますが、これにつきましても一旦100%というご報告をさせていただきますが、我々としては、例えば一年以内の離職ですとか、そういったところもしっかり今後見ていきたいと思っております。

その辺もぜひ業界の皆様から指導体制についてのご意見をいただけたらなと思っております。

同じく、昨年度、この席で新東京の状況はよくわかったと国家試験の状況もご報告をさせていただいていましたが、先ほどちょうどグループ校で同じ歯科衛生士の国家試験、そして技工士の国家試験チャレンジしている学校があるので、その中で新東京

はどのようなポジションなんだっていうのが気になるが見たことない、見てみたいという、ご意見があったのでまとめました。

2024年度ですが、技工の(国家試験)本試験の全国平均合格率が93.3%、衛生が91.0%になります。

本校含めてグループ校の実績としましては技工が96.2%、衛生が96.9%の結果となりました。

それでその中で新東京の実績は合格率が技工が95.7%衛生が96.4%ということで、人数的にはグループ校の中でもひととき大きな数字にはなってきております。(図表を指し示し)ご覧いただいた通り、我々よりも率的にも高く目指してやり遂げている学校部があるということは事実ですので、我々としては100%を目指すための施策をみんなで考えながら、合格率を上げていくことにトライアルしていきたいなと思っております。

基準5をご説明いたします。この基準5については、学校の環境、学生支援の環境の状況が、どうであるか、万全な体制を含まれていますかということをお問われております。

昨年度もご案内をさせていただきましたが、学生に対して、我々は、教育の部分では教務教員、教員の他に、本日、参加しております、学校校務を担う学生サービスセンターの東や、就職支援のキャリアセンターの西村がおり、就職、あるいは学生生活をサポートするチームがあります。

また、保護者の皆様にも支えていただきながらやっているという状況もあります。

また、JTSCという、先ほどちょうどちょっと触れますけれども、近年ですね、やはり心身的なところ、気持ち的なメンタル的なところで少しトラブルを抱える、あるいは抱えがちな学生様もいらっしゃいますので、その方々のサポートを手厚くするためにということで、学生相談の専従センターを、相談窓口としてご用意させていただいております。

いま、ご説明した以外にも科目を教えていただいております講師の先生はじめ、いろんな皆様にご協力をいただきながら、学生一人ひとりにつきまして、我々としては情報を集約しながら対峙したいというのが我々の仕組みづくりということになっております。

もう一つありまして、フローシートについて、おそらく去年もご案内、ご報告をさせていただいたかと思いますが、2年生あるいは3年生、学科の年限も含めた長期の履修の対応を進めていただくために、本当にフローでしっかりと学生一人ひとりをプロになるまで、プロとして協会の皆さんにお届けするまでにしっかりと教育していきたいということと、学生の心の動きみたいなことも含めてサポートをしていきたい。できるだけ早めに察知してあげたい、それぞれのクラスの中で、あるいはタイミングも含めて、(見本を提示し)このようなシートを毎月毎月状況を検討しながら対応しています。

途中で何か大きなことや変更が起きた場合には対策をどのように取っていくのかということ細かく検討しながら、できるだけ大きなことが起きる前に対策を細かく取っていくということが新東京の取り組みとしては大きいところかなと思っています。

先ほど申し上げたように、近年はメンタルと言いますか、気持ち的なところで、高校までの学びも今では多様化しており、様々な経験を経ながら学んで入学される方が多いです。

毎日、学校に登校しているとかということではなくて、通信教育の中で努力をされてきた方もいらっしゃいます。いろんな環境でお育ちになられている方々が、この学びの中でまた一つ合体をして勉強するので、その環境においては、やはり気持ちのところでは揺れる動きがあるかと思えますので、心のサポートができる場所や、それが体の症状として出るケースもありますので、そのようなサポートをする専用クリニックや、細かい情報も得ながら、学生が困ったときに適切なサポートができる場所をご用意させていただこうということで取り組んでおります。

次は基準 6 になります。

この教育環境ですが、これは考え方でございます。学内の施設など整備されていて、学びの環境として適切な環境であるかを基準点として設定しています。

また、海外研修など、教育の仕掛けがしっかり取り組まれているのかということについても、新東京としては 4 年ぶりに、新型コロナの影響や、あるいは海外の紛争をはじめとする国際情勢の中で海外研修が本校だけではなく、滋慶学園グループ全体として取り組みがなかなか進まなかったところがあります。ようやく昨年 11 月に韓国に海外研修ということで実施することができました。

技工と衛生、両方合わせてご訪問させていただきました。今年度も昨年と同じような時期にまた環境が大きく変化しないという状況であれば海外研修を実施したいと思って今プログラムも考えているという状況でございます。このあたりについても、「こんなプログラムがこの国であるけど」みたいなことで委員の皆様には何かご意見をいただくと、大変ありがたいなと思っています。

次は基準 7 になります。

学生の募集と受け入れということ、やはり学校として次の学生の募集、学生募集がうまくいっているかどうかということも、すごく重要なファクターとなって評価されています。(資料を図示して)こちらが技工でございます。(資料を図示して)こちらが衛生でございます。

技工は学科定員が 90 名、30 名、20 名、計 140 名の定員を抱えておりますが、おかげさまで、合計 148 名ということで、2008 年に滋慶学園グループに新東京歯科技工士学校が再編して以来初めて定員を充足することができました。本当に皆様のご支援をいただいて、成果が出たかなと思っています。これだけの多くの方々のご希望い

ただいて、技工士の第一歩を踏み出していただけたということは、本当に学内の我々もすごく喜んでおります。

また衛生は160名の定員に対して入学者数174ということで安定的に入学定員を充足することができております。これも引き続き我々でもしっかり支えていきたいなというふうに思っております。

昨年度ですね、このまた会議の中で、職業認知を高校生や若年層にどう伝えるかっていうことがとても重要で、今後にご訪問させていただいたりして、広く伝えていくような活動をしたらどうかというご意見をいただいて、我々の方でも、従来、出張授業なども実施はしていましたが、委員の皆様からご意見をいただきましたので、強化していくということで、取り組みをさせていただきました。

ものづくり、手作業に集中するというようなこと、技工士の技術に直接つながらなかつたなかったとしても、ゆっくり手作業に集中する喜び、楽しさみたいなことを知っていたらこうというテーマでやっております。

(制作物を手に取って)実際にこの私がお持ちしました、これですね。装飾を施したペンを作っていたりして、手作業や集中してものを作ることの面白さとか、やりがいなど、自己発見も含めて体験していただき、それをきっかけとして技工士という仕事を知っていただくよう取り組んでまいりました。

昨年度、出張授業として実施校数41校にわたる高校の方々の対応をしました。また会場ガイダンスでは、1700名を超える方々にお伝えすることができました。着実にその時、歯科技法士の仕事を知って、あるいはものづくりが仕事になるんだなということを理解できて面白かったですということで技工士の話をもっと聞きたいということで説明会に参加してくれている入学希望者が増えておりますので、引き続きこの辺は委員のご意見もいただいた上で、課題にしていきたいなというふうに思っております。

次が、財務でございます。

財務指標につきましては、事細かく報告ということで、私ども取りまとめさせていただきました。また情報公開ということで、ホームページからどなたでもご覧いただけるように設定をさせていただいております。

もちろんその財務指標については、監査を受けて、その監査を受けたものも合わせて公表させていただいておりますので、この辺もしっかり委員の皆様にご確認いただけるように対応しております。

引き続きこちらは、財務基盤ですが、なかなかこの財務基盤を説明するのが難しいんですが、やはり専門学校のいわゆる財源は、学生数ということになりますので、その辺のところのご理解いただければということにこちらに掲示させていただきました。

これが定員充足率です。

定員に対して何人実際の学生が在籍しているかということになります。技工士は2024年の4月の段階では72.8%の充足率でした。先ほどちょっと申し上げましたが、今年度は目標を達成することもできまして、2025年の4月は93.8%に定員充足率を高めていくことができました。

衛生は100%を超える進捗ということになっておりますので、財務指標的に、財務基盤的にはご安心いただいて学んでいただける環境になってきたかなというふうに思います。引き続き、こちらもしっかりと運営していきたいというふうに思っております。

こちらの概要につきましては、スマホでも見ていただけるようにホームページからも情報公開というタグをつけさせていただいて、閲覧できるようにしてあります。例えば学校の財務がどうなっているかとかってというボタン配置し、押していただくと情報が出てくるということになっていきます。こちらもしっかりと開かれた学校として対応させていただきます。

次は、基準10ですね。

こちらは、社会貢献やボランティア活動について、学校として、しっかりその地域や、業界の皆様のお役に立つことを目指した活動ができているかという指標でございます。

本校はここが極めて不得意なところというか、なかなかこれまで積極的に学校の外に出てというような協力体制を取れなかったところがありますが、近年、本当に少しずつではありますが、業界の皆さんですとか地域の皆様のお役に立つように学生およびスタッフの方でも少しずつ学外に向けたイベント、例えば「お口の健康」や「フォーラム」などでお手伝いをさせていただいております。少しずつイベントの参加を広げていってできるだけ地域の皆様や予定の皆様にも貢献できるような組織でありたいなと思って取り組んでおります。

ただこちらはまだまだ足りないところもありますので、しっかりと、どのように繰り返していくのかということは考えていきたいなというふうに思っております。

基準11になります。これが最後でございます。

国際交流は建学の理念にもある通り、国際教育を謳っておりますので、学生の視野を広げるためにもいろいろ取り組んでいきたいなというふうに考えております。

なにせ海外研修の実施が6年ぶりというところもあって、なかなか進んでないところもあったんですけども、新型コロナが少し落ち着いてきてまいりまして、台湾の中臺科技大とですね、いろんなやり取りを開始することができております。

我々から学ばせていただくために訪問させていただいたり、その反対に向こうから現地の学生を含めて日本の歯科技術を学んでいただくということで、来日されて本校にお越しいただいて、研修をさせていただいたりというようなこともしております。

ちなみに5月19日ですね、中臺科技大学から教員の先生方が5名、学生が15名お越しいただきました。

今期で実施 3 期になります。

プログラムでは、香港の授業ですとか、あるいは日本の業界の有り様なんかもご案内させていただく機会を得ております。

これも台湾の学校ですが、それだけではなくて、少しずつそういった進みだとか、学生の視点も視野も広げていくような活動は本校でも積極的に取り入れていきたいなというふうには思っております。

ざっとになりますが、こんなことやってますみたいなご案内になってしまいましたが、ご報告をさせていただきます。

本来であれば全ての報告触れていきたいところではありますけれども、一旦私の報告は以上でさせていただきます。細かいところはまたチェックをいただきまして、ご覧いただいてご了解いただければなと思います。

この後質疑応答もございますので、これはどうなっているのかいなみたいなことはご意見いただきたいなと思いますので、よろしく願いいたします。長くなりまして申し訳ございません。

以上でございます。

大原 00:58:11

それでは一時間ほど経ちましたので、10 分の休憩をさせていただけたらと思います。

大原 01:12:10

それでは再会をさせていただきたいと思います。

本校の説明をさせていただきましたので、先生方から質疑応答、ご意見をぜひ頂戴したいと思います。ご意見いただける先生方いらっしゃいますでしょうか。逆にこの内容はこういったことですかという質問でももちろん構いませんので、ぜひご意見いただけたらありがたいなと思っております。

河野委員 01:12:40

本年 3 月に東京都歯科医師会の臨時代議員会がありまして、そこで自分大森歯科医師会の代議員ですから東京都歯科医師会に対して、今の技工士不足、あと衛生士さんの供給不足に対して質問しました。

そしたら回答はですね、東京都市科医師会では上野動物園とか、あと東京フォーラム、歯科関係のそういう表示があるんですけども、その中でブースを作って、ワークショップみたいなことをしている。

あと、東京都衛生士会、東京都の希望士会と共同で助け合って、SNS を活用して、各専門学校の情報を流しているという回答がありました。

そんな感じですね。

篠田 01:14:10

ありがとうございます。

大原 01:14:13

大田区のイベントは本年 2 月にありまして、大田区民フォーラムに参加させていただきました。

河野委員 01:14:28

ありがとうございました。あのイベントは、200 名ぐらい参加ありまして、川崎歯科医師会と大森歯科医師会合同で初めてのイベントだったので、まあ手探りで実施しました。次回も予定をしております、時期は多分 2 月ではないと思います。またのご参加をお願いいたします。

篠田 01:14:57

こちらこそ、よろしく願いいたします。

我々もお手伝いをさせていただく中で、いろんな気づきですとか、学生も手伝ってさせていただいたことで気づきもありましたので、本当に地域ですとか、業界の皆様とそういう活動をするっていうことは、本当に視野が高まって、いい取り組みになってきたかなと思います。

引き続きよろしく願いいたします。

大原 01:15:26

では、委員の皆様お一人ずつお聞きしてもよろしいですか、では、森先生。

森委員 01:15:42

いくつかあるんですけど、グループ全体で同じ仕掛けの学校が 10 校ある。その 10 校、全部が全員充足はされているんですか、それとも、この設置する設置されている場所、交通の面、あるいはその人口の多い少ないで充足率っていうのは多少でも多くあるんでしょうか。

今井 01:16:13

私共、滋慶学園グループの学校としては、まず歯科衛生士学校におきましては、東京都内に 3 校ありまして。この大森にある新東京と、葛西にある東京医薬看護専門学校と、高円寺にある日本医師薬専門学校があります。定員収束に関しましては、残念ながら東京医薬看護専門学校だけがちょっと定員には満たないという状況になってきております。

他の歯科衛生士は 7 校、全国にあります、他の学校は全て充足しております。

技工士学校ですが、今回、新大阪歯科技工士学校がございまして、滋慶学園グループの設立 1 校目となるのですが、学園グループの代表の浮舟が一番力をかけて技工士が大事だということも、まあ、始まりが技工士学校からでしたが、そちらの方は前年比 150%ということで、定員よりも多く充足しております。

また、その近くにある東洋医療専門学校がありまして、歯科技工、3 年制なんですけれども、この 3 年制の歯科技工士の学校に関しましては、定員たった 30 名なんですけれども、やはり 3 年制というところと 2 年制というところで比較すると、みんな新大阪に行ってしまうと、3 年制の学校の方は定員充足はしていないという状況になります。

葛西の方の東京医薬看護専門学校が定員充足に満たないんですね。定員が確か 80 名でしたが、善戦したんですけれども、入学生は 70 名ぐらいで、あと 10 名ぐらいといったところになります。

森委員 01:18:10

そうすると葛西周辺で他の系列、ライバル校の同じような学校が存在するでしょうか。

今井 01:18:21

はい。あります。千葉県内に割と人が集まる学校があると聞いております。

また高円寺にある日本医歯薬専門学校の方が、実は激戦区でして、新宿の方に行けば他校様が数多くありますが、その他校さまについても、ちょっと集まってないと聞いています。

反対側の八王子方面に行けばですね、また他校様があります。他法人で結構人を呼び込んでいる学校もあります。あとは、立川はあの高円寺の方の学校が影響を受けているという状況です。

歯科衛生士養成学校は都内でも 20 校だったのが昨年 22 校に増えております。これからもまた増えていくというところで乱立し始めているという状況になっています。

森委員 01:20:16

ライバル校が近くになった時に、片方に人が集まって片方に集まらない。これは高校もそうなんです。

自分たちの学校も、人口 13 万、14 万の小さな木更津という年にある学校なんです。

学校ですが、公立私立がどういうよりか、全体で 7 校があつて、その 7 校とも、余るであろう定員を持っている状況です。

森委員 01:20:57

ですから、ちょっと近くにライバルの方があって、勝っている学校と、葛西だとちょっとよそに捉えている。よそに捉えている原因というのは何かあるんですか？

篠田 01:21:14

ちょっとそれは前任者の、なかなか言いにくいところがあるんです。

やはりこう独自性というか、学びの特異性みたいな国家試験が3年間でゴールだっ
ていうことは、本校も含めて変わりません。ただ、その中で学生さんはその環境ですと
か、学校の雰囲気ですとか、カリキュラムの構成ですとか、授業時間ですとか、いろん
なファクターでご覧になるんですよね。そこがやっぱり独自性があるべき出していける
かどうかということと、今の学生さん、高校生のニーズにちゃんとフィットしたものが
提供できているかどうかというので、そのある種の集まる集まらないというので構
成されているかなというふうに振り返っています。

葛西の教育もいかにお客様の今しっかりそのエリアにもよって違ったり、あるいは年
齢によっても違ったりする可能性もありますので、それをしっかりと抑えながら今年度、
2025年度は確保、しようっていうことで広げているということがあるとは思いますが。

森委員 01:22:24

もう一ついいですか？

たくさん聞きたいことがあります。

千葉県は公立だと県全体で5分の3が公立高校の私立の定員割れしているん
です。

ものすごく競争激化で。浦安とか。船橋の方だと東京に乗り入れ、常磐線だと埼玉と
か茨城の方にも流れているという形なので、ものすごい大激戦なんです。

そうすると外房の方の学校だと日本人ではなく外国人を入学させて、定員従属を回
っているところがあれば、難しいですけど、全日制の学校ではなくて、あえての
通信制の学校を併設して、全日制では取りきれないなどかっている、ちょっとお休みが
中学生の時から多いとか、ちょっと問題があったとかかっている子を入れて、グループ全
体で定員の学校だとかかっていることをやっていたりします。

受験者の場合だと、新入学者の中で外国籍の子の割合、それと全日制の高等学校
から来る生徒と通信制から来る生徒、特に全日制から来る生徒の中途大学の割合と、
通信制から来た生徒の中途大学の割合、大学法人の場合だと、通信制できた子たち
の退学率はものすごく高い。

ですから、なかなか通信制で推薦では取れないよねっていうのが、結構大学の担当
者の中では広まりつつあるそうなんですけども、背に腹は変えられない部分がありま
すので、それでもですから、専門学校の場合だと、全日制から来たこと、通信制から来
たこの退学者の割合と外国籍のことをもしお話しいただければと思います。

篠田 01:24:48

ありがとうございます。

技工士学校と衛生士学校ではちょっと状況が違いますので、区別しながらご説明をさせていただきます。

印南 01:25:00

技工士学校ですが、現在 3 学科ございます。

2 年制の昼間から 3 年制の午後部、1 年制の予備教育科という形で運用しております。

留学生に関しては予備教育科が、留学生専用の学科ではないんですけども、在籍が留学生のみという形になっております。留学生は総勢でいくと 65 名が在籍しております。

そうなりますと、技工士学校全学生の約 25%ぐらいが留学生になっているという状況です。

特段、中途退学に関しては留学生だからパーセントが高いとか、そういうことはなく、留学生も日本人の学生も退学のパーセントに関しては変わらずです。

入学者の全日制、通信制の所属に関しては、詳しい数字はとってはいないんですけども、特に 15 時から始まる午後部に関しては、高校卒業生の中の新卒高校を卒業して入学いただいている学生の 7 割が通信制で、全日制の方が少ないです。

昼間部に関しては逆です。全日制高校出身の方が多くて、通信制高校の方が少なくなっております。

これは学校の開始時間が夕方からということで、朝起きるっていうこと的生活習慣に課題がある学生だったりとか、そういった学生は 3 年制の、かつ夕方から始まる学校の時間帯を好むというのは最近増えてきているかなというふうに思っております。

こちら退学率にしてしまいますと、やはり全日制の学生の割合が大きくなるので、パーセントは低くできると思いますが、毎年的人数という形でいくと、通信制高校卒業の学生も、全日制高校卒業の学生も、人数的な割合でいくと、さほど変わりはないかなというふうに思っております。

大原 01:27:18

衛生士学校の方は留学生が非常に少ない状況です。511 人在籍している中で、昼間部のみしか留学生が在籍できませんので、7 名になります。非常に数としては少ないというのが今の現状でございます。

先ほどありました全日制と通信先ほど出身の学生はだいたい1学年に1割から2割、その年によって変動がありますので、退学に関しても、まあ確かに通信の子がどうしても登校習慣がなくてっていうことももちろんありますけども、まあ徐々にこう慣らしていったっていう形で馴染んでいく学生も非常に多いので、まあ通信だから退学が多いというわけではないのかなと。

今井 01:28:21

今、森先生がおっしゃった、そのまま大学にというスタイルなんですけれども、まさに昨年ですかね、他法人さんが歯科衛生士学校を始めたんですけれども、今の美容の方でも同様の法人さんが持っている、付属高校が3校あり、そのままそこにいる学生さんたちをエスカレーター式に美容学校に進学を早期AOということで出して、いわゆるそのまま囲い込んで入学できるという仕組みを作っていますので、おそらくこれは、美容だけではなく、他の職種にも来るんだろうなということを予測しております。

なので、ますます教育力で磨きをかけないといけないかなというところと、本校の場合は、本当にありがたいことに医師科関係者の方からのご紹介や、卒業生からの紹介で来ていただけるという方が、2割以上全体を占めておりまして、やっぱりそこは本当に業界関係の方の力かなと思って日々感謝しております。

河野委員 01:30:38

ちょっと言っているいいですか？

今、学校も東京の22校に増えるということでなんですけど、先ほどちらっとお話したんですけども、うちの会員もですね、募集してもなかなか来ないという問題が非常に多いです。

この前の4月の新入社員ですが、一般企業で初任給が上がっているっていうのがありますけど、歯科衛生士もすごいです。

結局どんどん、次からやっていかないと入社しないってことで、それがどうのこうのじゃないですけども、だから我々からすると、歯科衛生士さん、それこそ魅力を伝えてもらって、学校も人数も増えてきていただいた方がありがたいかなっていうのはあります。

例えばこう人材派遣業に登録してこう来てみたい。その登録料がとんでもないなんです。できればもうすぐやめちゃうっていう問題が結構あった。

それに関して新興産業資産不足に関しては、日本歯科医師会の会長とかも言ってるんですけど衛生さんのその質問に関しては、東京衛生医師会のホームページがある上ですから、やっぱり。

だからもう多分慢性的に今不足してるんです。だから、これから徐々に増えていったらもらった方がいいのかなと。

大原 01:32:19

ありがとうございます。では続いて中村様、よろしいでしょうか。

中村委員 01:32:30

私が毎年気にしているのが、国家試験の合格数を気にしておりまして、全国的に見ると、ものすごく減少しているのか、もう 800 切ったのかなと思ったら、案の定、今年は 800 を切ってきたって具合になっています。では新東京はどうなのかっていった時に、人を集める力っていうのも、すごく連携力があり、だから集まってくるんだろかなというふうに思えました。

集中型になってきているのか、リコーバックの話とは集中型になって、新東京は勝ち組になっているのかなっていう印象は受けています。ただ、今井先生が去年言っていたように、技工士希望者を集めるのが一番難しいという話が印象的で、では技工士はなんで今から技工士になろうとしないのか。

学生はなんで技工士にならないのかなっていったように、やはり技工士という職業というのが、長らく理不尽な、環境でやってたい時代があり、それを改善するために言ってしまうと、大手の技工所に入ってくるのかなとは思うんですけど、まあ一般企業になれるように頑張ろうっていう感じで、まず初め出しての感じなので、この一般企業と並べて比べても勝てるような、技工士の意見をつけていかなければならないですね。

もちろん給料などに関しても、そうなのかなと思うんですよ。それで技工士が良くなることによって、学校に入学してくれる人っていうのが必然的に増えるのかなと、この職業はいいよと思ってもらうのが一番大事なのかなとも思うので、これはやはり学校と技工士会とか、そういうところを含めて皆さんに教育していければいいかなと思います。よろしくをお願いします。

うちの会社も今年、新東京から一人も来なかったんで、社員に怒られる西村先生もよくいるように思えてるので、うちの会社も卒業生がほしくて、どうしても CAD などを始めやすいんですよ。

やはりベンチャーだとか当社の分野になってくると、なかなか時間をかけて、入ってきても、長年やっていた人たちと差があるために、あの自信をなくして辞めてしまったりということも実際にあったりとかするので、教育に力を入れていこうっていうことを気にしていこうかなと思っています。

これは今井先生が言った言葉なのですが、やはり入ってくる人は質が落ちてくるかもしれないということで、それをどうやって活かしていくかというときに、やはり教育の力を上げて、それをカバーしていくっていうことが私にとってすごい印象的で、うちの会社もそれをやっていきましょうよということで、会社の思いにつながっていますので、今回、この委員会に入っていい勉強させてもらっていただいて、お礼を申し上げたいです。

西村 01:35:17

ありがとうございます。今のお話を受けて何か聞ければと思います。

実は、技工士学校って今、大田区、ここに新東京と、あと東邦さんと、あと横浜に1校、あと千葉にはなくて、埼玉にあってというところですかね。

今、行きたいところがありますけれども、新東京はここにあるって、千葉からの学生が多いんですよ。あと埼玉の学生もちらほら、でも埼玉は上尾の学校に行ったり、横浜は地元に行くっていうところで、実は地域性もありまして、学生がその地域の技工所に就職を希望を出すんですね。

昨年と一昨年はたまたま、失礼しましたが、近くに住んでいる学生がおりまして、やっぱりその近くに今の学生って、卒業した後、生活をまず考えますので、一番働きやすい近くの工場に勤めたいという希望があります。

中村委員 01:36:19

そうですね。ただ、うちの会社は東京にもリースがあるので、その点もご考慮板欠ければと思います。

大原 01:36:34

では続いて木村様、お願いいたします。

木村委員 01:36:43

私の方からちょっと共有させていただければなと思うこともまずあってですね、今の職について、一期、二年で二期目に入ってまして、丸三年5月になるんですけども、その間、いろんなところにご挨拶に伺わせていただきました。

代表的なところでは、日本歯科医師会様、日本歯科医師連盟、それから日二さん、日二連盟、それ以外に厚労省の方、今であるところの会長様ですけども、対面で話さないことにはやっぱり分かり合えないだろうっていうことで、そういうことが今までなかったの、それをまず就任以降は挨拶に行くと、二期目に入ると、どんどん、どんどん距離が近くなってくる中で、2020年年末？、12月、まあ11月末に、日本歯科医師会の関口専務の方から連絡が入りまして、歯科技工士に関する協議会を発足させたいとお話を頂きました。

ちょっと来てくれないかということですね、12月のもう第1週にいきなり一日決まってですね、そこに、歯科技工士会、歯科技工所協会、それから全議員協議。この3団体が日本歯科医師会の方に集まってですね、いろんなかかる課題ですね、3団体でかかる課題をあぶり出して、協議して、いろんな形でですね、法制立法に出していけるような活動を始めました。

その過程で、今度はそれが4団体になりまして、それを定期的開催する、毎月のようにやっているというような状態になって、いろんな課題が新たに見えてきたということであるわけですけど、私が卒業した頃は年間3000人、今はもう700人とかですね、技工士養成施設の入学者。

出口のところではメーカー行ったり、異業種に行ったり、もう出口のところでは本当500人、600人になっちゃうのかなっていうのを、全国の技工所では人手が欲しいところがいっぱいあるということになっているのが現状なんですよ。

でも、いろんなことをやっていく中で、本当に今、大変な状況ではありますけど、外から見られる御校が活動された認知向上というところが少しずつ芽吹いて、また先生方の功労も我々を見てくれるようになってきているという、非常に大きな力が動き出しているというのが、今だということをお伝えしたいと思います。

その中で、御校グループも徹底的にいわゆる戦略経営を学校経営としてされている。

今お話あったと思うんですけど。一人勝ちじゃないですけど、これからどうなっていくのかなっていうのが滋慶学園はいいんですけど、他校さんはどうなのかなと。

九州の方で博多メディカルさんは結構とんがっていると思います。東邦さんは一気に今年人数増えたわけですね。なんで増えたかという、なんとなく私ちょっと耳に入っているんですけども、要は何かをしなければ絶対に差別化を図りですね、選ばれる学校にならなきゃいけないわけですね。

その中で、この専門学校の中でですね、本校は職業実践専門課程と、ここに認可を取られていると。全てで1110校っていうのになってますけど、これ一つ伺いたかったのは、他校さんっていうのは、技工士学校で取られているところってあるんですか？ネットで見ると、それ(職業実践施文課程認可学科)、名前がオープンになっていますよね。

職業実践専門課程というのは、一定の基準に対し、それをクリアしたり、更新したりするものなのですか？

東 01:41:28

その通りです。一番大きくはですね、現場で活躍されている方が教育に参画しているということが条件になります。こちら認定されてから、一応、文部科学省の方では3年間の期間において、申請の内容を見直しを立てるということで、始めているんですが、その制度の建て付けがきちんとしていない部分があったので、そのフォローアップの部分っていうのも、今なかなか三年ごとにはなっていないですね。ただ、あの、この制度の完成形と我々は思っていた部分ですが、実は専門職大学ということで、別の教育組織が出来上がってきてしまったものから。

どうしてもその職業実践専門課程という意味合いが薄まってきている感がありまして、その文部科学省の方に気づいていて、実は一昨年からその評価基準がえらく厳しくなっていて、それに基づいてフォローアップをするということで、順繰りであのやっていくということになります。

篠田 01:42:44

そもそも専門学校群で、そういう組み合わせというか、それを設定したのは、もともとは、いわゆる中学校、高校様のような大学様のような国から教育資金として援助金をいただきながら運営して、いい教育を還元するっていう組み合わせの学校群を専門学校から生み出したくて、専門学校ってご存知の、ように自己資金の中で全てやっておりますので、そうではなくて、いい教育をするために公立高校様のように、公立大学様のように学校から国から指定されて、そういったことも縁を含めてですね、国から守られるような教育をしたいためには、やっぱり専門学校の中でもいい教育をしていく学校をピックアップして、その学校については認めてもらおうっていう動きがちょっとだけあったんですね。

そのタイミングでこれを設定はしたんですけど、運用している中で専門職大学っていうのがまたできてしまったので、ちょっと今どういう調整をしていくかっていうことなんです。

ただ、どっちにしても質を下げるわけにはいきませんので、今までエントリーした40%の学校、今トライアルをして認められていますけど、このええトライアルをして認められた学校をしっかりと支えています。というのが文科省の今の動きなので、我々もしっかりとこれ本当に経年で見られてしまいますので、一年でも例えば就職ができない学生が多かったりすると認められないということもありますので、維持をしていながら質のタンクもしっかりできる、どこの切り取ったとしても、新東京以降、衛生はいい学校だよなっていう評価をいただけるような学校であり続けるっていうことに価値があるんじゃないかなと今のところは思っております。

木村委員 01:44:41

そうですね、というのはですね、技工士学校たくさんありますけども、その中で、やはり選ばれるっていう流れになってきていると思います。

それで、技工士はやはりもうDXがデジタル進んだことによって、かなり外から見られるような状態になってるんですね。じゃあどこに行こうか。近くにあったら近くに行きたいと、なかなかないから、まあ皆さんね、遠いところでも通うようなことになってきていると思うんです。

いろんな先生方から聞いていると、まあ高校の進路指導の先生は、やっぱり専門学校よりもとにかく4年制大学に行けっていう指導が相当出ているようなんですね。

私事ですけれども、子どもが小さくてですね、中学生の子どもがおりまして、この間、父兄参観、説明会が月1回あるんですけども、行ったんです。そしたらそこが中高一環教育なのですが高校のその後の進路がこの直近あるのデータが出てきたんですけど95%が4年制の大学なんですよ。

1%が専門学校で4%が2年制短大ですよ。それを聞いた時に、これ1%しか専門学校行かなくて、その1%の中で美容に行ったり、何に行ったり、技工に行ったり、衛生士に行ったりということになってくると、非常にもうなんていうんですか、差別化をし

っかり図ってるんですよ。もう地域ナンバーワンの選ばれる学校にならないと、五年、十年、その先っていうところが相当難しいんだろうなっていうのを感じたんですね。

そこでこういった認定制度があるのであれば、もうどんどんこれをですね、うちの学校が違うんだということをアピールしていただいて、当然ながら生徒さんたちがそれが理解できるような、いい学校だなっていうふうに思えるようなですね、教育カリキュラムをどんどん更新していただければなというふうに思っております。ありがとうございます。ありがとうございます。

時田委員 01:46:57

ちょっと専門的なところで知っていただきました。

一応私も歯科医師なので。私、埼玉県で歯科医院やってるんですね。

埼玉県歯科医師会の医療保険部員として度々仕事をしてきました。

たまたまですが、僕ここに入ってたんですけど、埼玉県の歯科医師会で、毎年あの歯科助手認定講習会、歯科衛生士さんもなく、一般の歯科助手、一般職の方の、手に歯科医師会が主催した月に1回で半年間ぐらいずっと通っていただくやつの方の責任者の方ですね。

テキストを作ったりとか、当たり前ですけど、僕はそういうのをやったんですけど、実習とかもですね、他の科がやって、半年間、受送作業が一般の歯医者さんとか会員の先生のところから通っている助手さんが来て、衛生士さんたちはどういうことをして、歯科医師はどういうことをしてるかっていう内容を勉強してもらって、最後に試験を受けて認定証をいただくんですね。

認定証が日本歯科医師会の認定のものなんで、一応ちょっとしたものっていただけという授業に携わった時に、なんで技工士さんのそういう印象的な、例えば一般の衛生士学校の授業では歯科医院に行って実習をやりますよね。

技法士さんにはそれがない。まあ新東京とかと息子に聞いた感じで、なんかあのラボの兼、あの就職の間に見に行ったりっていうのがあると思うんですけど、多分、先ほどの高校の話もそうなんです。

実は僕は(新東京を)受験したんですよ。

学校が移る前の高3の時に、実は受験して合格したんですけど、その年たまたま大学受かってしまって、大学に行っちゃったんですけど、同級生、幼馴染も実はここを卒業して技工士やってたものもいたりとかっていうのもあって、「あ、そういえば」と思って息子に連れてきたんですね。

で、息子に聞いても、なんかこう、やっぱり高校のクラスで、理系のクラスで、専門学校の2人だけで、うちの息子ともう一人は調理もなんか全然変わってない……。

学校自体やっぱり先ほどの高校の話でも、高校がしたいのは大学に行かせて、まあ学校の各自のそういうのを見せたいっていうのがあるとは思うんです。

まあ、もっとそういうところの働きかけとか、例えば。そうですね、今この学校って言ったら、技工士なんかは、例えば、長い期間行くのは難しいとは思いますが、職場体験ではないんですけど、技工士さんはこう歯医者さんからものが届いて、この模型状況作って行って、実際の口の中見ないことが多いとは思うんですけど、みんな選ぶも増えていたりとか、僕が勤めていたところだと、実は祖父も父も歯科医師だったので、祖父の代は家に技工台があったんですよ。

父の時は、バックヤードに遠心鑄造機があって、僕が学生の時に、夏休みになるとちょっと言われて、補綴材料がずら一っと立って、これ全部作っておいてって言われました。

遠心鑄造機で。まあでもそれがあったことで、作るものと作ったものを実際に患者さんの口の中に入れるのを見せてもらえたのでそういうところの実はこう関わりっていうのが学生さんが見えないっていうので離職しちゃったりとか、帰国してしまってなんかその歯科技法、歯科に関わっているのにせっかくこう歯科医院のそういうところに出る場がないというかその自分たちがやっていることが医療にすごい大きな責任があるっていうことを多分、学生のうちにもっと見るようなカリキュラムがあってもいいのかなと。

協力してくれる先生とかもいろいろ探さなきゃいけないと思うんですけど、歯科助手の認定講師やった時に、助手さんたちに衛生士学校に行きたいと思う子も中には出てくるんですよ。それを受けたことをもっとやりたい。

リコースターとかも、そういうのがもっとあると、技工士学校がかなりね、千葉県は全くありません。

柏にあった学校も衛生士の学校になりましたね。やっぱりそうやって学校増えてるので、衛生士学校も増えて、確かに先ほど先生もお話した通り、全然僕も衛生士さんに求人出して半年間一個も連絡が来ないところもあったんです。

もう衛生士さんの給料何ヶ月分っていうぐらい広告費を出しても、やっぱり慢性的に来てもすぐやめちゃう。で、成功報酬型っていうのだと、そのうち払う給料の分払ったのに、あの雇用ね、そのすぐ辞めちゃったりとか。だから多分そういうのってやっぱりもったこう、仕事の内容が学生のうちから、ちゃんと見えていて、意識がちょっと上がると、簡単に辞めたりはしないのかなと思います。

衛生士さんのね、実習があるので、やっぱりその医院の特色みたいな。まあ、あの医院の表せない先生方は必死だと思うんですね。

僕も研修医研修指導資格を持っているので、研修医育ててる時とかは、やっぱり表せないように理事長に指示をされて、まあそういうふうに教えるっていうところで、やっぱり僕も、ほかの施設はやらせてくれないんだけど、じゃあうちでもやって、どんどんや

って、責任をこちらからやってくださいっていう、変わる、見るって、まあ基本的なことです。そこがもっとあったらいいんじゃないかな。

その法令の問題で出れないとか、いろんなことがあるのかもしれませんが、なんかそういうのを、例えば新東京さんがやっていくと、先ほどのそのブランドとか、そういうのはすごい変わっていくんじゃないかなっていうふうに思います。

横田委員 01:53:59

親代表といたしましては、もううちの子は3年になりましたので、何よりも国試が大丈夫かということと、あと就職問題の2つになると思うんです。

ただ、見せていただきましたように、国試も就職もおそらくどちらの学校に行かせておけば大丈夫だなんていう気持ちはもう。

とても私にはありまして、きっとここにしてよかったなって常々思っております。

それはやはり、こちらの先生方の努力とか、いろんなことが、もう結果として出ているということだと思いますので、ありがたく思っています。

それともう一つ、ちょっと面白いことが最近ございまして、インディスラインという矯正をやらせていただいております、ラボというよりも、今まではメインはコスタリカ、海外で作って、ポート、メールのやり取りみたいな形で治療計画を作成してきて、海外と日本の互角的な問題もありますし、すごいタイムラグがありまして、向こうが日中の時は私がこちらでスキャンしたデータを向こうに送っても、出来上がるまでのタイムラグがすごかったんですけれども、2年くらい前に横浜にイビザトリードというのができまして、そこを見学された委員の口利きで、私も行ってまいりましたが、本当に歯科というのがここまで来たんだっていうくらい、ものすごい横浜港の一番妙高っていうくらい綺麗なビルで、全部がガラス張りの海がバーンって見えるようなところで、仕事をされているんです。

そこにもうチェアが、各個人個人の椅子がもう100脚くらいあり、自分の好きな時間に好きなように計画を立てていい感じになっておりました。

机をデスク見せていただくと、デスクがチョコレートだとか、日本のものだとか、薬品だとか置いてあって、シャシャシャと作って、ちょっとあれだと隣の人とちょっと話したりとか、離れたところには食堂みたいなところがあって、自由に飲んだり食べたりとか、こういう世界もあるんだなと思いました。

クリーンチェックっていうチェックを作っているのは、それがもう海外はすべて、近くはまったくなくても隠密なラインで雇われて二、三ヶ月。そのまあ研修をやった人が作っているシステムになっているということで、日本はすごいんですよって言われて、「資格者しか雇われてないんですね」ということで、お話を伺って帰ってきたような状況でした。

確かにコスタリカで作ったものと、日本で作ったものは全く違いがない、それとタイムラグが全くなくなって、今日の朝投げたら、今日の夜にはもう計画ができてきているような状態で、あと電話でも「ちょっと納得いかないです」とお話しすれば、すぐに答えてくれるような状況ができてきて、やっぱり技工士さんってすごいんだなってやっぱり思ったこともあるので、でもどんどん侵食されてっちゃうか、有資格者じゃなくても、海外ではもう雇われて数ヶ月の研修でできるようになっちゃうみたい。なので、技工士を持ってってということのテリトリーというかを逃さずに技工士さんだということ。その獣医師カップの人たちしかできないよっていうものを守っていくようなシステムというかを頑張っていたきたいなっていうふうに思った次第というか、そんなことがありましたので、ちょっと報告というかお伝えさせていただきました。ありがとうございます。

大原 01:58:59

先生方、貴重なご意見、ありがとうございます。他にご意見ございますか？

河野委員 01:59:03

二つありまして、まず一つに、中村委員もおっしゃってましたし。あと、西村先生が、生徒が選ぶときには、まずは生活が担保される。一番に考えて。まあ、そういったところになる。やっぱり経済基盤の確立というところは非常に重要だと思いますが、ご存知だと思いますが、人事院の方からですね、人員規則っていうのが、改正されて歯科技工士の職業にまあ包括されて、主旨及び概要ということで、4年制大学を卒業した歯科技工士、歯科衛生士及び技師、装備士の確保が必要であることを踏まえ、これらの職種に大学卒の初任給基準を新設する等の規定の整理を行うということで、今年4月1日から施行されたわけですけども、確かざっくり初任で27万と。

これは確かに。4年制なんですけど、非常に大きいことで、これが一つのベンチバックとなってですね、もうこれからもう稼げて、かっこよくて、革新的な仕事だっていう認知が、さらにこういけばですね、やっぱり生徒は確保できるだろうなというのが一つあります。

それからもう一つです。先ほど外国人留学生が65名。全体に占めるは、25%ということになってましたけど、こちらの方もですね、ずっと長くいろいろと、まあ物議と言いますか、日医さんの関係もあって、ライセンス取ったのに働けないので、この辺はですね、あの、もう三団体、まあ四団体も承認をして流れてますので、あとは入管管理局の決定次第ですね。いつになるかわからないですけど、もう全部揃っているんで、バツンといく可能性もなくはないという、それはもう情報として入っていると思うんですけど、その辺をやはり、地域的な特性もありますので、しっかり集めていただいて、しっかり協力していただいて、離職率の低いこの学校でもそういう生徒たちを集められるということではできないわけで、御校の場合はもう古くからですね、そういったことをされていたので、まさにこの機会が大きな飛躍につながるんじゃないのかなというふうに思っています。よろしくお願ひします。

大原 02:01:31

ありがとうございます。委員の皆様、貴重なご意見ありがとうございました。

宮崎 02:01:37

私たちもね、一層頑張ろうという気持ちが強くなりましたので、お願いいたします。

大原 02:01:45

よろしくお願 いたします。はい。あっという間にお時間が過ぎてしまいまして、定刻の 5 時になりましたので、閉会のご挨拶とさせていただきます。新東京歯科衛生士学校副校長の三觜よりお話しさせていただきます。

三觜 02:02:06

長時間またお忙しいところ本委員会にご参会いただきありがとうございました。

委員の皆様のお話を伺いながら、本当にありがたいなというふうに思ったことが、本校は技工士学校、衛生士学校、同じ建物の中にあるというところで、本校の委員の皆さんは同席をしていただいて、そして貴重かつ活発なご意見をお伺いできるというところが、本当に過去にはない、すごい素晴らしいところですし、本当にそういったところを大事にしながら、私どもの学校運営、教育活動、教育環境や、また教育意欲の向上に向けて、皆様にいただいたご意見をしっかり反映させながらですね、進めてまいりたいなというふうに思いました。

任期が来年度末 3 月までということで、また何かお気づきの点があれば、ぜひ学校の方にお越しいただきまして、ご利用いただけましたらというふうに思いました。

本日は本当にご意見、また貴重なお時間をいただき、ありがとうございました。